
めぶきのうみ

音宮 音音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

めぶきのうみ

【Nコード】

N7245C

【作者名】

音宮 音音

【あらすじ】

柔らかい木々、暖かな風。かえるべき場所がそこにあった。

僕は森を泳いでいた。

深い深い木の海のなか、柔らかい葉の波に流されるままになって。
そして、段々と沈んでいく。

多分青いだろう空は、もうみえない。

強く伸び重なりあう木や、うねうねと絡みつく草。その隙間をする
りするりとぬけていく。

ちかちか光る。

「どうしたんだい？」

「つかれたの？」

「まだ冬眠には早いよ？」

口々に言うのは小鳥たち。うるさくはないけど、少しだけ、形と色
が変だ。

鳥というには少し何かがたりない気がするし、
何だかみた事あるような、それでもちよっと違うような、よくわか
らない色をしている。

風がつつ、つつ、と吹く。うつすら濡れてる、暖かな風。

「そつえば、どうして溶けたんだらう。」

指先がするすると流れていくのが、
わずかにみえた。

まるで糸のようだ。

その先をみると、そこから若い芽があふれだすように芽吹いていた。
ふんわりとした、色とりどりの芽だ。

その時にふと気付いたみたいだ。

「そっか、僕は還えるんだ？」

僕は森に尋ねる。

けれど、しんしんと葉をならすだけ。森はこたえてくれない。けど、
それがきつとこたえなんだ。

そう思うと、よろこびもかなしみもくるしみも全部溶かされていく
気がした。

全て一部になるんだ。

そしてそれを自然に受け入れる事ができた。

きつと、暖かかったから。心地よい場所だったから。

僕はただその時を待つ事にした。

僕は森を泳いでいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7245c/>

めぶきのうみ

2011年1月27日11時15分発行